

アンケート結果から見る意識の変化

※参考：図1～図3 令和元年実施 市政に関する市民意識調査結果（暫定値）

図3 女性が働き続けたり、再就職するうえで必要なことは？

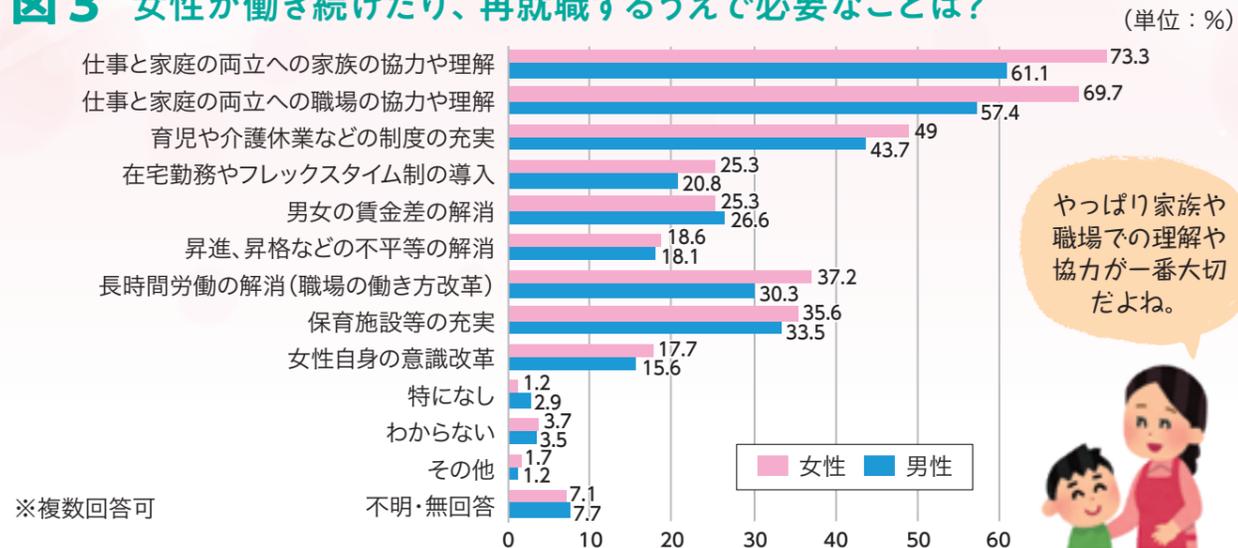
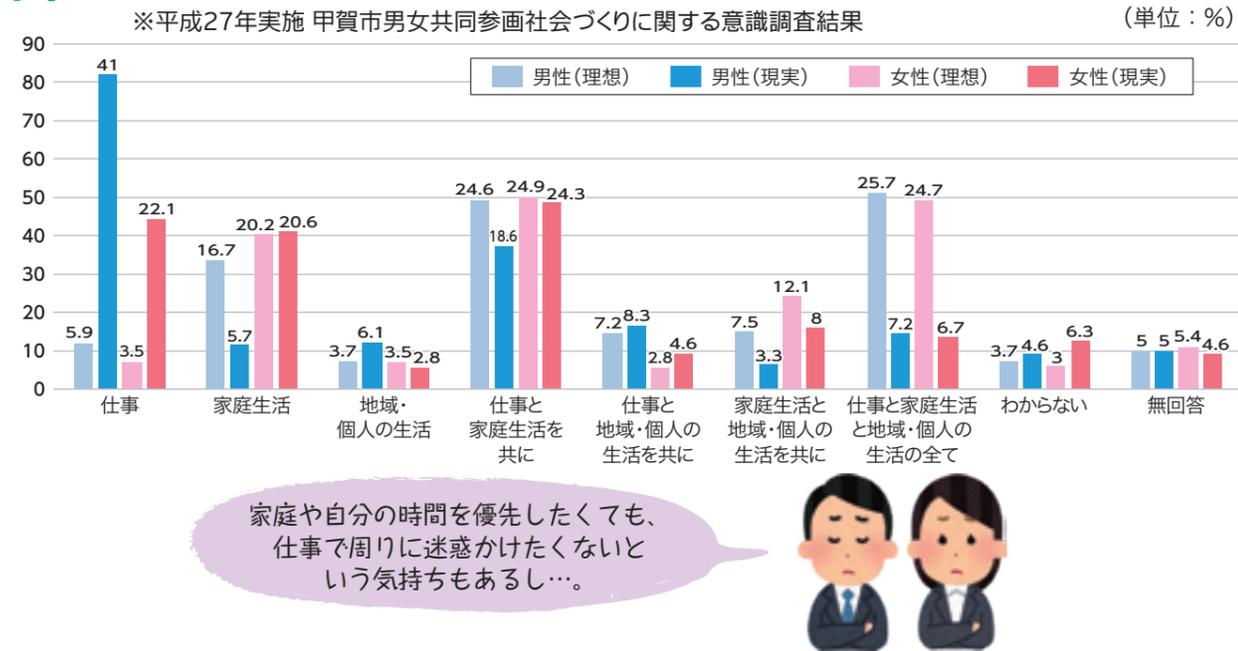


図4 生活において何を優先しますか？



家庭や自分の時間を優先したくても、仕事で周りに迷惑かけたくないという気持ちもあるし…。



図1 男性は仕事、女性は家事・育児・介護？

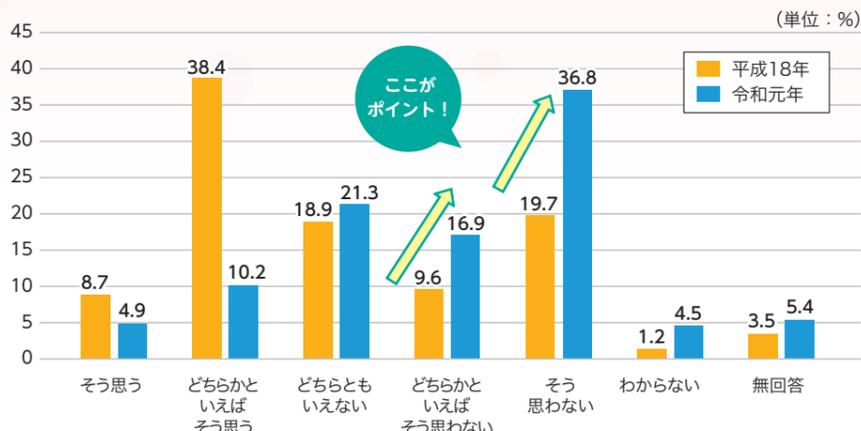
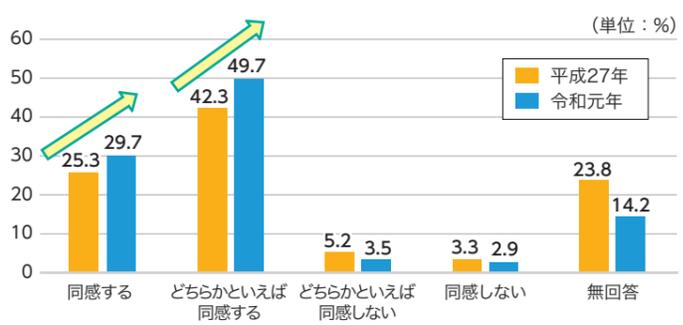


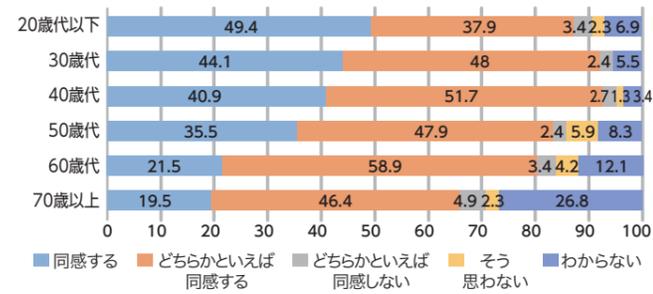
図2 ①ワーク・ライフ・バランスの考えに同感できる？



多様な働き方ができる会社って自分自身も成長できる理想の職場だね。



②年齢別での回答



周囲の理解が最も大切

(図3)は女性が働き続けたり、再就職するうえで必要なことを尋ねたものです。男女とも「職場や家族の協力や理解」が最も多く、周囲の理解や協力する気持ちは大切なのようです。次いで「育児や介護休業などの制度の充実」「長時間労働の解消(働き方改革)」「在宅勤務やフレックスタイム制の導入」などの職場環境の改善となっています。

オール甲賀で理想の実現を

一方、(図4)は、生活において何を優先するか、それぞれ理想と現実について尋ねたものです。男女とも仕事、家庭、個人の生活を優先したいと理想を抱いているものの、現実には仕事が優先されてしまうことで、理想と現実では大きな差があることがわかります。

「甲賀市男女共同参画を推進する条例」の制定(平成30年6月)をはじめ、市ではイクボス宣言企業への支援や、出産、子育て等により離職した女性の再就職への支援・相談、また、資格取得への助成なども行っています。

性別による固定的役割分担意識をもたず、誰もが仕事と家庭を充実できるよう理解・協力し合い、男女が共に輝ける社会をオール甲賀で創り上げていきましょう。

大きく改善した性別による固定的役割分担意識

上の(図1)は、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別による固定的役割分担意識について尋ねたもので、平成18年に行った「甲賀市男女共同参画社会づくりに関する意識調査」の結果とを比較したものです。

平成18年には「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人は少数であったものが、令和元年には過半数になるなど、性別による固定的役割分担意識は大きく変わってきていることがわかります。

理解が進んだワーク・ライフ・バランス

(図2-①)は、仕事と生活の調和と言われるワーク・ライフ・バランスについてどう思うかを尋ねたものです。約8割の方が「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答しており、ワーク・ライフ・バランスの考え方が市民の皆さんに浸透していることがわかります。

年齢別では(図2-②)のとおりであり、社会に出て働き出す年齢層である20歳代が「同感する」と答えた割合が最も高くなっています。